

新井充先生、最終講義のご案内

拝啓

皆様には時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、新井充先生は二〇十九年十一月に六十五歳をお迎えになり、本年度をもって東京大学を定年でご退職されるご予定でいらっしやいます。

先生は、一九七七年三月に東京大学工学部反応化学科を卒業後、東京大学大学院工学系研究科反応化学専攻修士課程に入学され、一九七九年三月同修士課程を修了されました。修士課程では、吉田忠雄教授の研究室にて研究に取り組みました。引き続き同研究室にて博士課程に進学され、一九八二年三月に「反応性化学物質の不安定性評価に関する研究」で東京大学大学院工学系研究科から工学博士の学位を授与されています。

その後直ちに、新日本製鐵株式会社（現日本製鐵株式会社）に入社され、化学研究センターにて製鉄プロセスにおける副生ガスの分離手法や耐熱性高分子の研究開発および高分子加工に関する研究所設立のための企画に従事されました。一九八五年から二年間サウスウエストテキサス州立大学（現テキサス州立大学）に客員研究員として在籍され、耐熱性高分子の合成研究に取り組みました。

一九九一年一月に東京大学工学部反応化学科の講師に就任され、一九九三年に助教、その後、大学院工学系研究科化学システム工学専攻助教、大学院新領域創成科学研究科環境システム工学専攻助教を経て、二〇〇五年に環境安全研究センター教授に昇進されました。二〇〇九年から二〇一一年および二〇一三年から二〇一五年には環境安全研究センターのセンター長として不明廃棄物に対する本学の取組みを明確にすると共に、環境安全研究センターにおける積極的な回収と処理の方向性を打ち出し、改革にご尽力されました。さらにその間、環境安全本部の環境管理部長をお務めになり東京大学の安全管理水準の向上に注力されました。

研究分野としてエネルギー物質化学をご専門とされ、火薬類などに用いられるエネルギー物質の反応挙動解析や危険性評価の高度化に熱心に取り組みました。二〇〇一年には「物質の危険性評価のための試験方法及び判定基準に関する調査研究（一）」に参画され、物質の発火・爆発危険性について、その評価手法の改良および新たな手法の開発に大きく寄与されました。また、二〇〇五年から二〇〇七年には文部科学省振興調整費重要課題解決型研究「テロ対策のための爆発物検知・処理統合システムの開発」に参画され、低温下での爆発物の感度評価の面から貢献されました。

このように日本でも数少ないエネルギー物質化学分野の専門家であることから、経済産業省産業構造審議会の保安・消費生活用品安全部会火薬小委員会の委員長や、産業火薬保安ワーキング、火工品保安ワーキング、煙火保安ワーキング、特則検討ワーキンググループといった、火薬類保安行政に係わる重要な委員会の委員および主査を務めるなど行政にも貢献されています。

また、学会活動においては二〇一二年から二〇一十六年の間（一社）火薬学会会長という立場からエネルギー物質研究を推進され、二〇一十六年から二〇一十八年には（特非）安全工学学会会長として、国内の産業安全のみならず分野を横断する安全研究を促進されました。

さらに、一九九五年より国際危険物専門家会議（GUS）に日本代表として参加され

ており、また、二一十二年より国際花火シンポジウム学会のアジア代表理事を務められ、国際的にもエネルギー物質研究の第一人者として活躍されております。

このように研究活動や行政への貢献によって、化学物質の危険性を制御するという面から持続可能な社会を実現することに注力されてこられました。

先生はまた、化学物質の危険性と有用性について学生たちの意識を喚起することの重要性を特に感じておられました。先生がご担当された「エネルギー物質化学／エネルギー物質化学特論」、「システム安全工学／システム安全工学特論」、「安全・環境化学」の講義では、本質を伝えようとする姿勢が学生に強い印象を与えております。また、慶應義塾大学でも毎年百余名の学生に講義「化学防災と安全工学」、首都大学東京において約五十名の学生に講義「安全化学」をご担当され、安全教育を行っておられます。

研究室においては、常にリベラルな姿勢で学生と接せられ、その薫陶を受けた学生がのびのびと実験を行い、活発に議論を行いながら研究を存分に進める、という自由闊達なカルチャーを醸成されておられました。先生の研究室の卒業生や研究スタッフは産業界、大学、省庁で幅広く活躍しています。

これら研究・教育以外に、先生は幅広い活動を行ってこられました。特に花火の分野では全国花火競技大会「大曲の花火」審査委員長、隅田川花火大会花火コンクール審査委員長、やつしろ全国花火競技大会審査委員、花火甲子園審査員などを歴任され、日本の文化芸術としての花火を支える活動を行っておられます。

以上のように、先生はさまざまな分野におきましてご活躍され、優れた研究開発、人材育成、そして社会貢献を行ってこられました。

つきましては、以下の通り最終講義および交流会を開催いたしますが、新井先生のご意向により、退職記念会が行わないこととなっております。この機会に是非とも皆様お誘い合わせの上、多数のご臨席を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

二〇十九年十二月吉日

東京大学 環境安全研究センター

センター長 辻 佳子

東京大学 大学院工学系研究科

化学システム工学専攻 専攻長 山田 淳夫

記

【最終講義】

- 一・日時：二〇二〇年三月六日（金） 十五時～十六時四五分
（十四時三〇分より受付開始）
- 二・場所：東京大学工学部八号館八三号講義室
- 三・講義題目：「**火薬と安全と**」

【交流会（懇談会）】

- 一・日時：二〇二〇年三月六日（金） 十七時十五分より（十七時より受付開始）
- 二・場所：東京大学山上会館一階談話ホール
- 三・会費：六千円（ご出席のお返事をいただいた方には、振込先をご案内させていただきます）
ますので、事前振込にご協力のほどお願い申し上げます）

お手数ですが、以下のフォームにより、メールあるいはFAXにて、一月二十四日（金）までに出欠をお知らせ下さい。

【ご回答フォーム】

最終講義

（ ）ご出席

（ ）ご欠席

交流会（懇談会）

（ ）ご出席

（ ）ご欠席

ご芳名：

ご所属：

ご職位：

ご連絡先

電話番号

E-mailアドレス

お問い合わせ先

東京大学 環境安全研究センター

新井教授室秘書 榎覇朋美

〒113 00333 東京都文京区本郷七 三 一

TEL & FAX: 03-5841-2973

E-mail: arailab2020@esc.u-tokyo.ac.jp